

2016年

5月14日(土)

午後1時30分～5時00分(1時10分開場)

会場: **港勤労福祉会館1階第1洋室**

東京都港区芝5-18-2 / 電話: 03-3455-6381

●最寄り駅: JR 田町駅三田口より徒歩5分

都営地下鉄三田駅下車、A7出口を出てすぐ左隣



◇ビデオ学習会 《731部隊の国家犯罪を裁く》 資料代500円
シリーズ
731部隊員の証言 / 第5回
講演 **近藤昭二**さん (ジャーナリスト)

今回のビデオ証言は、731の姉妹部隊といわれる栄 1644 部隊（中支那派遣軍防疫給水部）の第 2 科に所属した**田中辰三**さんで、1994 年に取材したもの。戦争犯罪者の意識から部隊での活動を長らく秘匿していたが、長野県での 731 部隊展での盛り上がりから事実を語る決意をした。

部隊建物の配置、マルタの搬入や逃走事件、人骨の送付などについて語り、寧波や洞庭湖の南への細菌攻撃、731 部隊との共同作戦など、「奈良部隊」の存在を初めて明かし、関東軍の命令を裏づける貴重な証言をする。

《今も政府が認めない731部隊とは？》

日本軍中枢は国際法を無視して細菌戦を構想した。1936 年、細菌戦部隊の関東軍防疫部を設け、ハルビン郊外の平房に大規模な施設を建設。1940 年、同施設を本部とする「関東軍防疫給水部」が設けられ、翌年から 731 部隊と呼ばれた。

731 部隊では、細菌兵器の開発・製造のため、3 千人を超える中国人・韓国人・ロシア人などが敗戦までに虐殺された。

細菌作戦は、1940 年から 42 年まで中国の浙江省や湖南省などで実施されペストやコレラを大流行させ少なくとも 3 万人を虐殺。44 年以降は米軍に対しても細菌戦の発動を準備していた。

【講師紹介】

著書: 『731 部隊・細菌戦資料集成』(柏書房 2003)、『死の工場—隠蔽された 731 部隊』(シェルドン・ハリス著、近藤昭二訳 柏書房 1999) ほか。731 部隊に関する論文多数。

脚本: チェルノブイリ原子炉爆発事故前年に上映された日本の原発事故を取り上げた映画「生きてるうちが花なのよ死んだらそれまで」(ATG 配給、主演・倍賞美津子)の脚本執筆。



2016.4.7

主催: **NPO法人 731部隊・細菌戦資料センター**
(共同代表 近藤昭二・王選・松井英介)

Website: <http://www.anti731saikinsen.net/> ◆お問い合わせは一瀬法律事務所: 東京都港区西新橋 1-21-5
Tel: 03-3501-5558 Fax: 03-3501-5565 / Email: info@ichinoselaw.com 担当元永 (もとなが)